

1989年5月4日12時20分、北アルプス剣岳前剣。無風快晴。だがその一瞬、柳下紀之君は短い生涯の幕を閉じた。享年34歳。あまりにも早すぎる死であった。

その年、我々三島労山パーティーは正月に予定している冬山合宿の偵察を兼ねて、春山合宿として5月2日から6名で早月尾根～剣岳～別山乗越～内蔵助(くらのすけ)平～黒四ダムの予定で入山した。

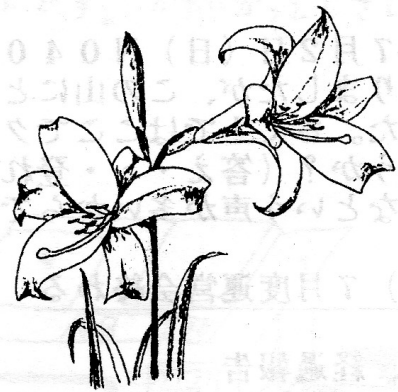
そしてその日、早月尾根を登り快晴の剣岳に無事登頂し別山尾根の下降にかかった。春の快晴の高温下での雪は腐って重く始末が悪かった。アイゼンは雪がダンゴ状に付着し機能を果たさず、むしろ危険なので外した。しかし15cm位中はカチカチに凍っている。重心が後ろに掛かるともろに滑るので急斜面では非常に神経を使う。春の高山の難しさはこの辺りにある。

柳ちゃんは少し遅れていたが、トップの私が前剣の雪壁に着いた。かなり急でヤバイ。縦走登山の難しさは、登りで悪場をチェック出来ないことにあり。登りでチェック出来れば下りの対応もまた変わる訳だ。後ろ向きになりピッケルを深く突き立て、靴先を蹴り込み慎重に下る。50m程で基部に着いた。やがて柳ちゃんも雪壁の上に到着し雪壁の下降に移ろうとした瞬間、滑り東大谷(ひがしおおたん)に墜落した。

柳ちゃんは独身で黄瀬川の辺に下宿していた。彼との付き合いは労山のスキー交流会が縁だった。その後、ハイキングに誘って労山に入会した。真面目で仕事熱心な好青年だった。「かっちゃん」「ねむっちゃん」「はらへった」が口癖で「それじゃあ、柳ちゃん三重苦だね」とかまったものだ。彼はパーティー中一番力がなかった。何故もっと面倒を見なかったのか?の自問自答は続く。

事故後、ある程度の保険金が柳下君に給付されました。そのお金は柳下君のお父さんが御厚意で三島労山に全額寄付されました。三島労山では柳下君の死を無駄にせず、また教訓を後世に伝える意味で、そのお金で「柳下基金」を設立し、遭難防止、啓蒙(けいもう)活動に役立てることにしました。そして最初に「柳下基金」を利用して購入したのが、今度私達が三島労山から譲ってもらった印刷機だったのです。

当時、私は山の会を始めるなど夢にも思っていないでしたが、まだまだ健在な「柳ちゃんの印刷機」と共に当分頑張っていきたいと思っています。



ニコウキスゲ

7/15 霧ヶ峰にて

カット 末生 博子